

大賞
(一般の部)

へいわのぎょうれつ

米田 詩麻

柳田先生、こんにちは。毎日暑い日が続いていますね。私は保育士をしていて、今年は年長クラスの担任をしています。子どもたちは暑くても元気いっぱい、プールに色水、スライム遊びと歓声を上げながら楽しんでます。私が勤めている園では、野菜の栽培も取り組んでいて、今年の夏はピーマン、キュウリ、ナスが豊作でした。その畑の一角に、今年はヒマワリの花も植え、大きくてきれいな花が咲きました。咲いた時に子どもたちが「先生、ウクライナのヒマワリが咲いたよ!」と嬉しそうに教えてくれました。今年二月ロシアによるウクラ

イナ侵攻が始まり、とてもショックを受けました。何の前ぶれもなく戦争って始まるんだと思いました。遠い日本にいて、日々穏やかに過ごしている私。何もできないけど、子どもたちにはこの平和が続く未来を残したい。そう思って、ウクライナの国花であるヒマワリを植えようと、子どもたちに提案しました。テレビで戦争のことを知っている子どももいて、「爆弾使ってるんだよ。」など話をしていました。世界地図や国旗の絵本も用いながら少しずつ興味をもっていきました。八月に入り、お盆や終戦の日もあることから、平和についての絵本を読み聞かせをし、何冊か読んだ中で『へいわとせんそう』という絵本があります。戦争と平和について、分かりやすい絵、分かりやすい言葉で書いてあり、子どもたちもジーンツと見て聞いていました。＼へ

「わのはは」「せんそうのはは」「へいわのちち」「せんそうのちち」と並べて書いてあり、子どもたちの違いを自分なりに感じているように読めます。読むすすめていくと、「へいわのぎょうれつ」と「せんそうのぎょうれつ」というページがありました。「へいわのぎょうれつ」は小さい子どもたちがベビーカーに乗り、保育士と一緒に散歩をしている様子が描かれていて、「保育園だ」と、子どもたちは言っていました。一方「せんそうのぎょうれつ」は兵隊が銃をもって並んでいる場面です。ジョックと見て「怖いね」「嫌だね」とつぶやいていました。

『へいわとせんそう』の絵本を読み聞かせした日の夕方、少しずつ迎えが始まりました。すると部屋の中で遊んでいた一人の男の子が窓の外を見て

米田詩麻さんへ

米田さんからのおたより、ほんとうに感動しました。

保育園の子どもたちにとっても、ウクライナの戦争は、心のなかに影を落としているのですね。

園の一角に野菜畑をつくって、子どもたちに収穫の喜びを体験させるとともに、ウクライナの国花のヒマワリも、平和への願いをこめて植えたのですね。植えただけでなく、世界地図や国旗の絵本を見せると、まだ四〜五歳でも、「少しずつ興味を示すようになったとのこと。実際に自分たちでヒマワリを植え、大きな花を咲かせる実体験をしているだけに、ウクライナという国や国旗に興味を抱いたのでしょね。幼児期に耳慣れない遠い国の話であっても、そういうアクセスの仕方、子ど

ものの心を動かそうとするのは、とても大切な取り組みだと思います。

圧巻は、絵本『へいわとせんそう』のなかの“へいわのぎょうれつ”と“せんそうのぎょうれつ”の違いを、対称的な絵で示している場面に対する、子どもたちの反応です。

小さい子どもたちがベビーカーに乗り、保育士と一緒に散歩をしている“へいわのぎょうれつ”の場面に対しては、子どもたちは「保育園だ〜」と嬉しそうに共感する反応を示したのに対し、兵隊が銃をもって並んでいる“せんそうのぎょうれつ”の場面に対しては、「怖いね」「嫌だね」とつぶやく拒否反応を示したという。

そして、その日の夕方、お迎えの時間になり、先に出た子どもたちが手をつないだり、保護者同士

が笑顔で言葉を交わしながら門の方へ歩いていく姿を、園内から見ていた残った男の子が、「へいわのぎょうれつだ」とつぶやいたということです。ウクライナで幼稚園や小学校までミサイルで攻撃され、多くの子どもたちが犠牲になっているロシア軍の残虐さを思い起こすと、保育園児たちの“へいわのぎょうれつ”は何としても守らなければならな

いと強く強く感じました。

米田さんの勤務する保育園の取り組みを心から称賛したいと思います。米田さんの文章も素晴らしいエッセイになっています。